第３章　みどりについての市民の意識と意向

1　アンケート調査の概要

みどりのまちづくりについての市民の意識や意向を把握して、市民の要望を踏まえた計画としていくために、「みどりのまちづくりアンケート調査」を行いました。

アンケートは小平のみどりに関わる活動に参加している市民を対象とし、みどりの基本計画がめざす方向性や、みどり行政がこれから何に重点的に取り組んでいったら良いかなどを中心に質問を設定し、配布数 334、回収率 59.0%と多くの市民からご回答をいただきました。

このほか、平成 20 年（2008 年）12 月に市内 7 地区で市民懇談会を実施し、51 名の市民の方の参加があり、貴重なご意見をいただきました。

みどりのまちづくりアンケート調査の概要と全体の回収率

調査地域	小平市全域
調査対象	小平市在住のみどりにかかわる関連団体の構成員（成人男女）
調査方法	郵送配布・郵送回収（一部直接配布・直接回収）
調査内容	緑地保全、緑化推進、公園整備等について計 21 問
配布数	334
有効回答数	197（回収率　59.0%）
調査期間	平成 20 年（2008 年）11 月 21 日～平成 21 年（2009 年）1 月 14 日

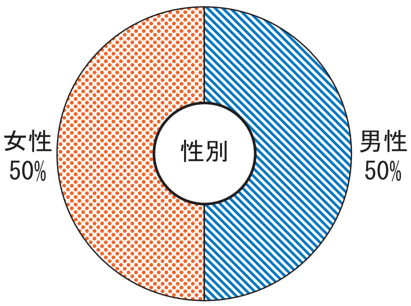
2　みどりのまちづくりアンケートの調査結果

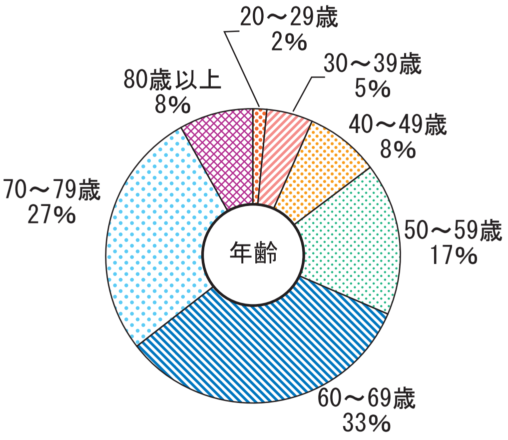
(1) 回答者の属性

①　性別と年齢

回答者の性別は男性 99 名、女性 98 名とほぼ同数でした。

年齢構成では 60 歳以上がほぼ 7 割と高い割合になっています。みどりのまちづくりに積極的に関わっている市民は、グラフを見ると 50 歳以上の方（85%）が中心となって活躍していることがわかります。

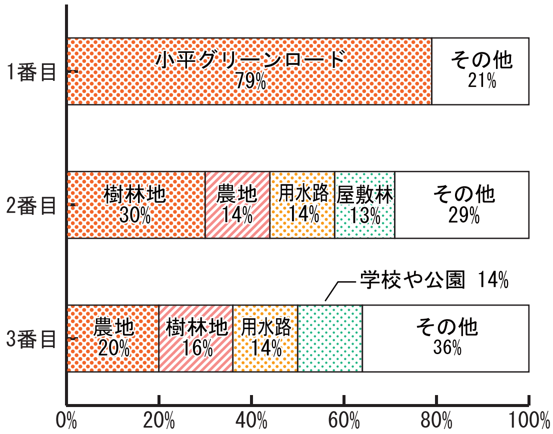




(2) 小平のみどりの印象

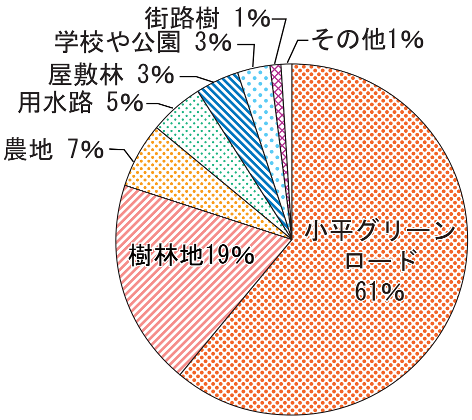
① 印象の強いみどり

小平を印象づけているみどりについて、強く思い浮かぶ順に３つを上げてもらいました。図に示すように、小平グリーンロードの割合が大変高く、小平を代表するみどりとして回答者の多くに認識されていることがわかります。



② 将来に伝えていきたいみどり

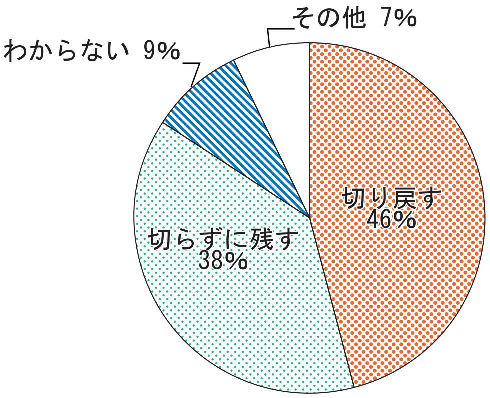
将来に伝えていきたいみどりは、印象の強いみどりと同じような傾向を示しており、小平グリーンロードを将来に伝えていきたいと思う回答者の割合が半数以上と高くなっています。



(3) 雑木林と農地

① 雑木林の管理の方法

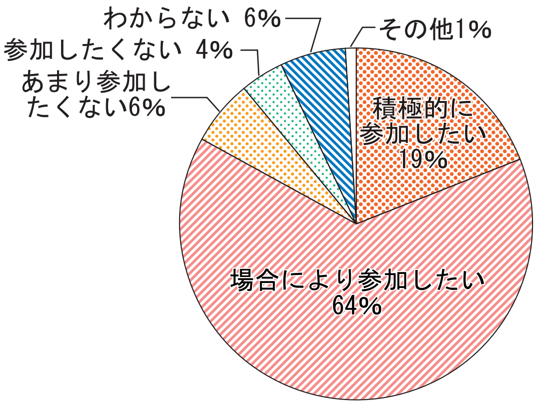
近年、雑木林は間伐などの回数が減少して、樹木が大きく育ち過ぎたり、常緑樹が増えるなど、かつての姿と違うイメージになってきました。雑木林の管理には定期的な間伐等が必要なため、大きく育った木をどのように扱ったら良いかを聞きました。「切り戻してもう一度育てたほうが良い」との回答が最も高く 46%でしたが、「切らずに残したほうが良い」とする回答者も38%に上っています。



②　雑木林管理イベントへの参加意向

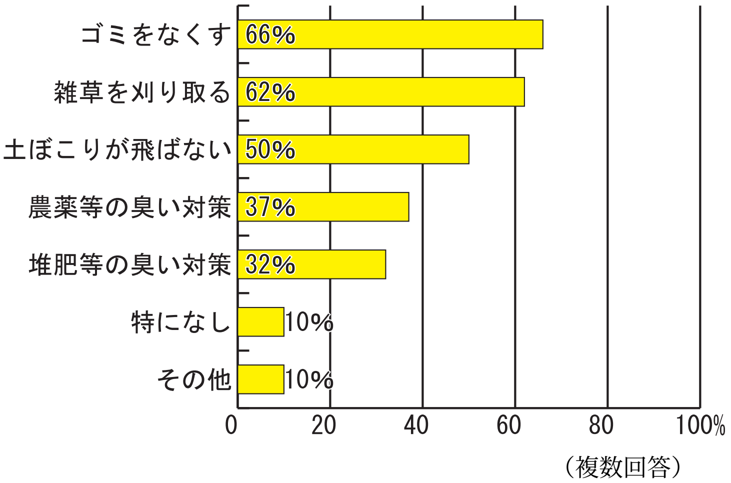
雑木林の管理は、多くの市民の参加があればさらに美しく維持していくことができます。参加意向は「参加したい」とする回答者が全体の約 8 割を占めており、何らかの形で関わっていきたいとする意向が高い結果になっています。

年代別では、20 歳代と 80 歳代の参加したいとする割合がやや低く、40 歳代は 100%の回答者が「参加したい」という結果になっています。



③　美しく快適な農地の維持

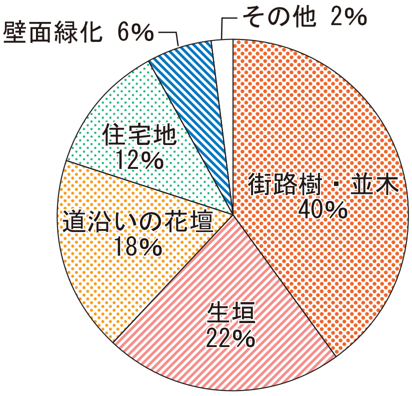
小平では産業としての農業が盛んであり、農業と調和した都市環境の形成、農地と住宅地との共生が必要です。農地をもっと快適な姿に維持するにはどこを良くすればよいかについては、ごみ、雑草、土ぼこりへの対応を求める回答が半数を超えています。



(4) 都市の緑化

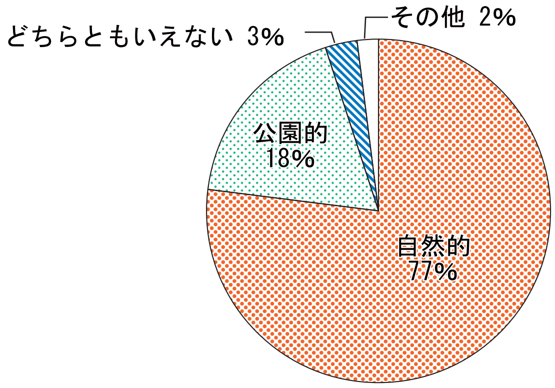
①　どこのみどりを増やしたらよいか

道路沿いのみどりが多いとみどり豊かな都市の印象が強まります。どこのみどりを増やすことが効果的であるかについては、「街路樹や並木を増やす、育てる」ことが効果的だという回答が 40%でした。次いで「生垣を増やす」、「道沿いの花壇を増やす」と続いており、道路を歩きながら見えるみどりを増やしたらよいという回答が多いことがわかります。



② 用水路の再整備

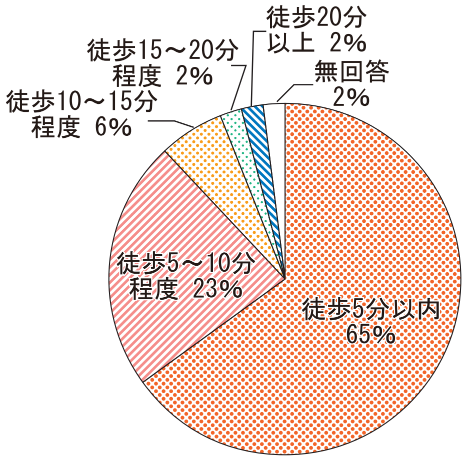
小平市では親水性に配慮しながら用水路の再整備を進めています。これから用水路の再整備を進めていくにあたり、どのような姿が望まれるのかについては、「公園的な親水緑道のイメージ」の 18%よりも「自然性を重視した小川や用水路のイメージ」との回答が77%と高く、自然に配慮した再整備が回答者に多く望まれていることがわかりました。



(5) 公園

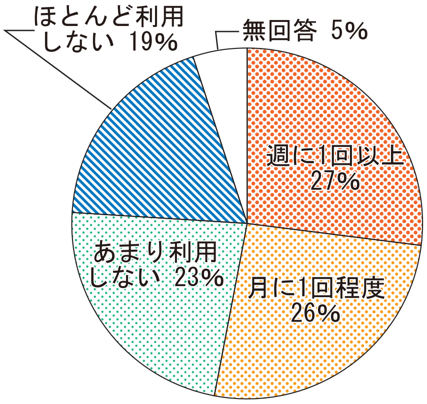
① 身近な公園

市内には公園などが約 300 箇所あり、概ね歩いて 5 分以内のところに公園があります。身近なところに公園があると感じているかについては、5 分以内のところに公園があるとした回答者が 65%に上り、10 分以内を含めると 9 割近くの回答者が身近なところに公園があることを知っています。反対に、10 分以上かかるとした回答者が 1 割おり、一部の区域では公園の認識を高める努力が必要なことがわかります。



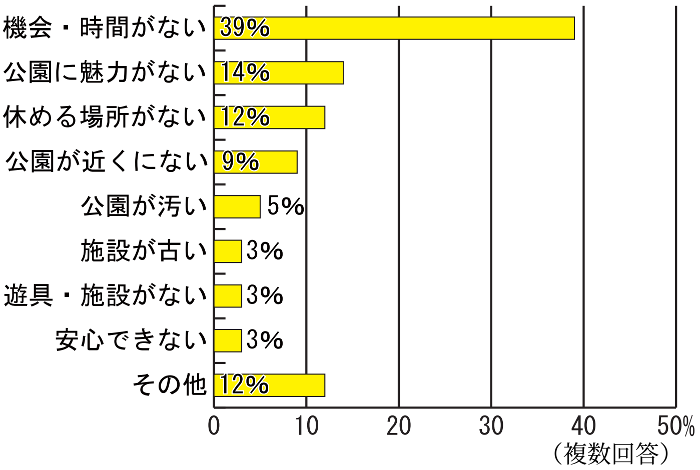
② 公園の利用頻度

公園の利用頻度は、月に 1 回以上利用するとした回答者が 53%とほぼ半数でした。あまり利用しない、ほとんど利用しないとする回答者も 42%と半数弱であり、公園の利用頻度を高めるための工夫が必要なことがわかります。



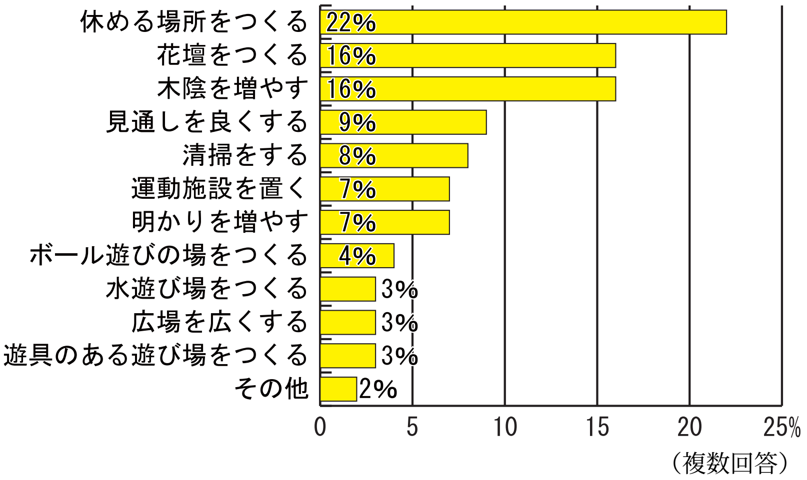
③　公園を使わない理由

　公園をあまり利用しない、ほとんど利用しないとする回答者の公園を使わない理由については、「機会がない･時間がない」から使わないとする回答者が約４割でした。また、魅力がない、休める場所がないとする回答者は、ほぼ年代を問わず同じ程度の割合で回答しています。



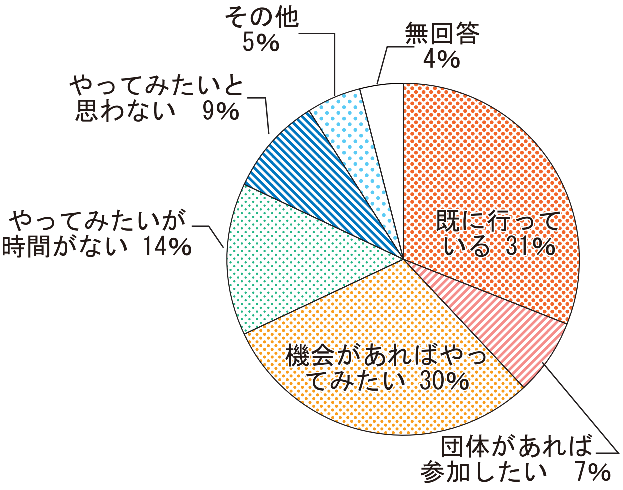
④　使いやすい公園にむけて

　公園を利用しやすくするにはどうしたらよいかについては、概ねどの年齢層も、休める場所、花壇、木陰といった休憩や休息の機能を求める回答が多く寄せられました。40 歳代までは、1 割程度の回答者が運動施設や遊び場などを求めており、若い世代ではやや施設系の整備を望む声があります。



⑤　公園の管理運営やボランティアへの参加意向

　公園に花を植えたり清掃などを行う活動への参加意向については、「既に行っている」とする回答者の３割を含め、約８割の回答者に参加の意向がありました。



(6) あかしあ通り

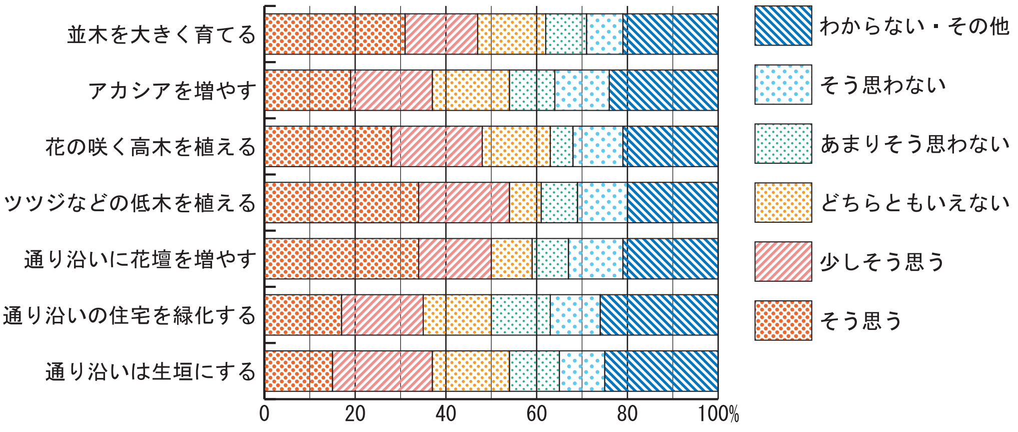
① あかしあ通りのイメージアップ

小平市民まつりのメイン会場となるなど市民に親しみがあり、小平を代表する通りともいえる「あかしあ通り」について、イメージアップするための具体的な方策についてたずねました。

概ね 5 割程度の回答者が「そう思う」、「少しそう思う」と回答した項目は、「並木を大きく育てる」、「花の咲く高木を植える」、「ツツジなどの低木を植える」、「通り沿いに花壇を増やす」の 4 項目です。

「アカシアを増やす」、「通り沿いの住宅を緑化する」、「通り沿いは生垣にする」の 3 項目は意見が分かれており、はっきりとした傾向は見られません。

あかしあ通りのイメージアップについては、これから市民とともに考えていくことが必要と思われます。



あかしあ通り（美園町一丁目）